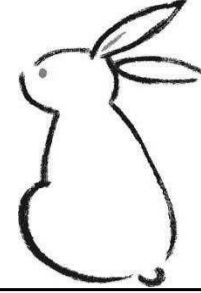




Shiro-usagi

白兎・素兎



平川塾HP



アメブロ



YouTube

文責：平川 達三

まさお君は、サバンナ・シマウマ？

問題：まさお君のお父さんの体重は72kgです。これは、まさお君の体重の4倍にあたります。まさお君の体重は何kgですか。

「先生～、できたで～」と言って私に見せてきたのは、小学3年生のA君。

$$(しき) 72 \times 4 = 288$$

$$\begin{array}{r} 72 \\ \times 4 \\ \hline 288 \end{array}$$

答え 288kg



小中学生のあるある～現実との乖離～

もともとはビジネスシーンや金融業界で使われるものに「乖離」という言葉があります。

「乖」には「背く」という意味合いがあります。つまり、「そっぽを向く。逆らって従わない」ということなので、

「乖離」はただ離れるだけでなく本来、

なら深い関係にある両者の間に大きな隔たりができてしまう、あるいは、近くにあるべきものが離れてしまうというネガティブなニュアンスがあります。

ビジネスシーンや金融業界のように、具体的に数値に差ができること以外に

姿です。

まあ、ここまで来ると、中学生対象のいわゆる「調べ学習」のレベルになりますが、身近な存在を主軸にして学ぶのが小学低学年期です。

更に5年生になると、沖縄と北海道の住居の違い、日本の農業と漁業や工業などがどのように発展し続けているかを学び、6年生で日本の歴史と政治のしくみを学びます。

このようにして学ぶ内容をざっと追いかけてだけでも、小学校で学ぶ社会科は大変現実に即した内容になっているのが分かります。

日本国の文部科学省が考えるところの「義務教育」とは、中学校までの教育課程を終えて（何らかの理由も含めて）高等学校に進学せずとも、実社会で生活をしてゆくのに困らないこと、つまり日本国憲法第25条第1項が定める「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」を基軸に考えられた、世界でも類を見ないほど完成度の高い教育制度です。

確かに、学校の体育の授業に対して、「うちの子をプロのサッカー選手に育てて下さい」とか、音楽の授業に対して「うちの子をピアニストに育てて欲しい」などという、極めて個人的な要求をするのは論外というもので、そういうことは学校外の活動として個人の

判断のもとに、クラブチームに所属するなり、優れたピアノの先生のもとでレッスンを受けるなりして下さいというスタンスであることは、今更ワタシごときが言うには及びません。

ところが、これがいざ算数の文章題となると、子どもさんの頭の中の事情ががらりと変わるのです。それこそ、冒頭の「まさお君はサバンナ・シマウマ」が、まさに代表格のようになります。

子どもさんって、「AはBの何倍にあたる」とか、「Aさんが持っている金額は、Bさんよりも50円少なく、Cさんの持っている金額はAさんよりも100円多いです。このとき、Cさんの金額とBさんの金額はいくら違いますか。」なんてことを問われれば、たちまち脳内の思考回路の硬直が始まります。

$$\begin{aligned} A &= B - 50 \\ C &= A + 100 \\ \rightarrow C &= (B - 50) + 100 = B + 50 \end{aligned}$$

もっとも、後者の問題を上のような式にすぐさま置き換えて脳内でササッとできるお子さんともなれば、小学生であれば相当な訓練を積んでいるといえます。なぜなら、理系的な思考力が高いからです。

ところが、ここに国語力が潜んでいるとは、子どもさんではなくて大人の方が気づけないのです。

も抽象的なこと、例えば、互いの考えの溝や、理想と現実の違いなどに対しても「乖離」という言葉は使われます。

では、小学生の学習内容に目を向けてみましょう。

もっとも分かりやすいのが「社会科」です。低学年期は科目名は「社会」ではなくて「せいかつ（生活）」になっていますね。義務教育では、1、2年生で身近な生活に関わること、例えば水道やガスや電気はどういうシステムで供給されているのかとか、公共交通機関の仕組みや、日常生活の安全を守る立場の消防署や警察署で働く人々がどのような活動をしているかなどが学ぶ対象となっています。

3、4年生では自分たちが暮らす地域や地方自治体のこと、つまりこの辺りであれば大阪市のことを地図で調べたり、大和川や淀川などの河川の歴史を学んだりします。ちなみに私が小学3年生のときは、大和川と道頓堀川の歴史を学んだ記憶があります。

「AさんはBさんよりも50円少ないんだったら、

$$『A = B - 50』、$$

CさんはAさんよりも100円多いから

$$『C = A + 100』$$

あ、Cさんの式のAさんのところを『B - 50』にすり替えればイイじゃん。」

という「ことばでの思考」です。

私は生徒さんには、こういう思考の進め方を「ストーリーを描く」と言っているんです。

「AさんとCさんの金額の差は50円だということを、あなたはどのように求めたのかを自分で説明することがストーリーを描くことです」

自分で解けたのなら、どのようにして考えたのかという道筋は説明できてあたりまえ。説明の上手下手ではなくて、相手に伝えられるかどうかが大事。この自分の考えたことを順を追って相手に伝えることが「論理」で、どうやって分かりやすく伝えようかと考えることが「論理思考」。この思考を身に着けることができれば、今度は相手から言われたことも、同じように順を追って相手の思いまでさかのぼることがで

例えば、大和川についてだと、ご周知の通り、上流から中流域はほぼ自然のままですが、奈良から流れ下る大和川と金剛山から流れ下る石川との合流地点である柏原から大阪湾までは人造の河川です。

もともとは大阪平野を大きく北へ蛇行し、淀川の少し南辺りで大阪湾へ注ぐように西へ蛇行して、昔から「暴れ川」として恐れられていました。これはどうにかしなければということで、江戸時代に大阪の商人の財力と江戸幕府からの援助を受け、当時の大坂（当時は「大坂」と書いた）の住民総出で人力でもって、柏原市以西の姿に造り替えたのですから、地域のみならず国家をあげての一大プロジェクトだったのです。

ちなみに、天王寺駅から奈良駅を結ぶいわゆるJR奈良線（大和路線）ですが、大阪府柏原市と奈良県王寺町の県境にある「亀の瀬」という大和川の渓谷を通ります。ここは明治時代に敷設された鉄道の中でも有数の地滑り地帯でした。詳細は割愛しますが、難工事の末に地滑りを克服した結果が現在の

文章題が苦手ならまだしも、初めから文章問題をすっ飛ばして努力しようとしない人は、相手の話を聞こうともしない、相手の想いを理解しようとしなくていい人と同じです。

苦手なのは、少しずつ試しながら、いわゆるスモールステップで進めていけば必ずできるようになるし、もしかしたら得意になれるかも知れません。つまり、苦手な人と端から見向きもしない人とは次元が違う、立っている精神ステージが違うのです。

この列車は 秒速72kmで走っています？

マッハ1は秒速340m。マッハ5.0以上が極超音速。もっともマッハは音速の単位なので気温に大きく左右されます。

ちなみに物体の速度が音速を超えると、その瞬間に衝撃波が発生します。

これは中学生のT君のお話です。

新幹線の「N700系のぞみ」が時速260kmで走っているときの秒速はどのくらいなのだろうという話になりました。

時速260km = 時速260000mなので、1時間は3600秒ですから

$$260000 \div 3600 = 72.2222... (m)$$

つまり、1秒間で約72mの速さで走っているのです。すごいですね。

で、5分ほどしてできたというので、このT君が書いた答を見てみると、「秒速72km」とな？

ちなみに極超音速で、

$$340 \times 5 = 1700$$

もちろん、単位は「m」です。1秒間に「1.7km」進めるのですから、ものすごい速さです。

ちなみに、地球はどのくらいの速さで自転しているかご存じですか？

1周が最も長いとされる赤道部分で約40000kmです。

$$40000 \div 24 = 1666.666... \text{km (時速)}$$
$$\text{分速なら } 27.777... \text{km (約27km)}$$
$$\text{秒速なら } 0.46296... \text{km (約460m)}$$

およそ時速1670kmで自転しています。ですから、極超音速は地球自転速度の約3.7倍ですから、やっぱりすごい。

これでも秒速1.7kmなんです。それなのに「秒速72km」って、あなた…。

万が一にも実在しませんけれど、それでもゴリ押しで存在したと仮定して、おまけに無事にレールの上を走行できたとしても、その車両が1回通ったあ

はじめれば、英語ができるようになってくるし、算数も数学もできるようになってきます。

ただし、時間がかかる

語彙数・語彙力の発達はとても時間がかかります。それにもまして環境で大きく左右されます。

極端な話、「アホ・ボケ・カス・シネ」という攻撃的な言葉が飛び交う環境で育った人は、成長してもおそらく短絡的で直線的な発言しかでないでしょう。

Aという国は悪いことばかりするから、その国のニンゲンも全部悪人だ。

前もお前がやったんだから、今度のこのこともお前に決まっている。

こんな発言ですね。

ネットの世界で飛び交ってませんか？ こういう書き込みに乗じて「そうだそうだ」と言っている人も、あるいは、火に油を注ぐ形で、いわゆる「炎上させている」人も、ワタシからすれば同族に見えます。ワタシだってそんなに思慮深いニンゲンではないけれど、皆さんと同じくこういう喧しいことからは遠ざかっていたいタイプです。

とは、その路線のある周囲数kmは衝撃波で大惨事になることは確定です。窓ガラスは粉々ですね。多分、その程度では済まされないでしょうけれど。

ワタシがT君にこの話をして、やっと自分の誤りに気づきました。このとき塾舎にいた周囲の子は全員が爆笑していましたが、小学生の低学年の子どもさんじゃあるまいし、中学生でここまで現実との乖離をおこされては、笑ってもいられません。

では、なぜこんなことが起きるのでしょうか。それは、算数(数学)の文章題は問題にすぎなくて、とにかくそれらしい答を出せば良いという思考でいるからです。

例えば、中学校の理科ですけれど、最初に学習するのは身近にある植物のことだったり、レンズのことだったりしますが、これは現実即した学習から抽象思考へと発展させる足がかりとしてゆくプログラムが組まれているからです。

地震のメカニズムだって化学反応だって実際には見ることはできませんが、連綿と積み上げられてきた論理があり、その論理に従って判断すれば、地震であればグラフ化され、化学であれば反応式として示すことができます。このように実際の目で確かめられないことでも論理的には確かめられる。これが抽象思考です。でも、現実から乖離し

本格的に国語に向かい合い、指導の方法を改めて研究しはじめて5年目になります。その間に小学1年生の読解問題の題材に始まり、大学受験の読解の題材文にいたるまで、現代文だけでなく古文も含めて、数限りない文章に触れてきましたし、これからも変わりなく続くことでしょう。

その中で、「これ、いいな」と思った題材文の作品名からウェブ検索をして入手した書籍も数知れず。この5年間で得たものは、外部的には、出版社の方からその語彙数や語彙力をお褒めいただき、ブログの読者でもある塾長先生からも「言葉の使い方の巧みさ」をご指摘いただいたこと、内部的には、読解問題の解く速度や正確さが5年前それらとは比べものにならぬほどに発展したことでしょうか。

自分の肌で感じ確信を得たり、ときにはこれで正しいのかという自問自答をしたり、そういう意味では禅問答の世界にいるような感覚で、読解問題を速く正確に解けて、生徒さんへの解説スキルがアップするだけに留まらず、氾濫する世の中の情報の中から自分なりに正しいと思われるものを選び出せるようになってきました。

結局、いちばん力を身に着けているのは指導者であるワタシなのですが、これはこのままで良いと思っています。

ては成り立たないのです。

文章題も、実際にミカンやらリンゴやらケーキを目の前に出すわけにはいかないし、確率論にいたっても、サイコロを2つか3つくらいまでなら目の前に出せますけれど、それでも216通りの組合せを実物として見せるにはかなりの無理があります。

文章題が苦手(キライ)なお子さんの大抵は、現実との乖離(ギャップ)がとんでもないことになっています。その結果として無意識の領域では、まるで「問題は問題。現実が現実。これらをつなげるとは何事ぞ」なんてことになっているかも知れません。

対症療法としては、問題の読み方、つまり方法論とかスキルを指導すれば良いのですが、対症療法はどこまで行っても対症療法、いわゆる、付け焼き刃なので、「あ、そうか」の繰り返しになります。

「『あ、そうやった発言』や『あ、そうか発言』の多い子ほど、お勉強ができない子。」

というのは、ワタシが生徒さんによく言うせりふのひとつです。それは、一生懸命考えた末の「あっ、そうかっ！」ではなくて、反射的にいっているだけだからです。

「あ、そうか」と「あっ、そうか！」の違い。この差は大きい。

「先生」という言葉に「先に生きる」という意味がこめられているとすれば、先んじて新しいことを見聞きし、その中から正しいこと、みんなの役立つものを選出し研究し、その結果をいち早くその情報を待つ人々に、理想を申すなら、あまねく伝えることだと思っています。



国語力は 2 全てに及ぶ基礎エンジン

国語力というのは、あまりにも漠然としています。

前述のように問題と現実を乖離させないようにするのも国語力であるなら、問題文に使われている言葉を理解し、何が書かれているのか、何を問われているのかを自力で理解するのも国語力です。

なので、次の2つにしばります。

- ① 語彙数
知っている言葉の数。
- ② 語彙力
知っている言葉を使いこなせる力。

①の知っている言葉の数は、お店でいえば「在庫数」で、②の使いこなせる力は、いわゆる営業力です。

在庫ばかりでは商売にならない。いくら優れた商品でも売らなきゃお話になりません。

文章題の苦手、文章を読んでもよく理解できない、人の話を聞かない、人の話や書かれていることを勝手に自分の都合のよいように解釈する(曲解する)。そういう人の多くは語彙数と語彙力が不足しているといえます。

実際に、国語科の勉強を向き合っし

ジュークチャーの小ネタ

A. I. が絵を描く



「あれ？ この絵は？」

そう思って下さったあなたに、お礼申し上げます。

実は、すぐ左側のイラストもこのサバンナ・シマウマの絵も全部A.I.が描きました。冒頭の「まさお君」に登場するシマウマは、この額縁から出て来ていただいたシマウマさんです。手持ちの画像ソフトをちょいといじくって合成しました。



A.I.に絵を描かせるには、「コマンド」が必要です。

「サバンナ・シマウマ サバンナを走る バックグラウンドは白っぽく」

筋肉ムキムキのテニス少年の場合は、「中学生 スマッシュをする少年」というコマンドで「提供」してくれました。正直、現れた「テニス少年」には面食らいましたけれど。塾生さんにテニスを一生懸命する生徒さんがいるので、その子に見せたら気をよくしてくれました。で、彼のLINEに送ったところ、早速自分のアバター（というのかしら？）にしたら、友達から突っ込みまくられたそうです。

でも、別にこのようなイメージでおこ願したわけではないのですが、妙にの生徒さんのイメージと被るところがあって、A.I.君、もしかしたらこちらの意図を忖度してくれたのかしら？」とってしまいました。

iPhone11を持ったとき、ある塾長先生にSiriというA.I.のことを尋ねると、

「先生、Siriに『ボクと結婚して下さい』って聞いてみ？ おもしろいで」

ということだったので試してみると…

「そのようなことをいわれましても、まだ業務が山積みですので、これで失礼します。」

と、軽くその身をかわしたところをみると、同じような発想をするオッサンが多数おるんやろなと思った次第です。

「先生、パクリかどうか、専門家の耳で分析して確かめてくれない？」

という妙な依頼を受けたのです。もう困惑のナニモノでもないわけでした。だって、そのお声の奥に「パクリだと断定してね！」という無言の圧力を感じたので…。



愛はかげろう



冬のソナタ

聴き比べてみて下さい。

これを云々かんぬんしてしまうと、ショパンのピアノ協奏曲第1番のピアノ独奏が現れる冒頭部分のメロディラインが、演歌『北の宿から』にそっくりなので、これも一時は噂されたものです。

もっともインターネットすらもなく、もちろんSNSもない時代ですので、この程度で収まりましたけれど、今だったらとんでもないことになっていたかも知れません。

もう一方の『すばらしい日々』はクリスマス商戦の時季によく耳にしていたように思います。というのは、この歌

Helmut Whalcha (ヘルムート・ヴァルヒャ)

歌詞を認識できない件～四方山話～

J-Pops をはじめとする、いわゆる歌謡曲というジャンルでは、リリースされた時点とは異なるアレンジをほどこし、別の歌い手によって歌われる場合は、リバイバル曲、あるいはカバー曲などと称されます。

中島みゆきさんや松任谷由実さんの歌、懐メロであれば美空ひばりさんの歌も含まれます。

私には妙なクセというのか、いわゆる大多数の人とは大きく異なるところがあります。それは、曲がりなりにも音楽を専門的に勉強し、一時期とはいえピアノ弾きをしていたときに染みこんでしまった、自分だけが特別だなどという自負ではなくて、まさに「クセ」なのです。

むしろ、専門的に勉強していた、いわゆる音楽大学生の時代の負の産物になるかも知れない、周囲から見れば「そんな聴き方ってあるんですね」などと驚かれるのですけれど、自分にとってはちょっと厄介だなと感じるときもあるというシロモノです。

の転調のさせ方が、クラシック音楽の世界では陳腐きわまりのない、それこそ音大の入試対策にさえ使われないような、今更ながら感が満載の作曲技法のレベルの低さだと心中でせせら笑っていたので、あざやかな記憶として残っているものと思われま。



すばらしい日々

しかしながら、それは25年前の話。今ではFM COCOLO の放送で耳にするたびに、2曲ともにそれらの完成度の高さに驚かされます。

こういう経緯の結果、現在の印象は次のような感じでしょうか。

クラシックとかジャズなどのような歌詞のない楽曲は、油絵とか前衛的でアーティスティックなデザイン画であり、ポップスをはじめとする、いわゆる歌唱曲は漫画に代表される線画のようなもの。

油絵やデザイン画だけが優れているわけではなく、漫画などのイラスト（線

それは、歌詞を認識しない（できない）ことです。とにかく歌詞が覚えられないのです。そんなカラオケとかで歌詞カードを見ながら歌えば覚えられますのではと思われるかもしれませんが、第一にそのカラオケが大嫌い。カラオケ自体がどうのこうのではなくて、マイクを通して耳に入る自分の声に対して虫唾が走るくらいの嫌悪感があるのです。おぞましいの一言です。

音楽を専門に勉強していたと公言しているのに、基本的に歌が好きではないのです。ですから、学校の教師時代にしていた合唱の指導も半ば嫌々しておりました。でも、合唱の伴奏は大好きだったので、頼まれれば依頼主の所まで出向いては伴奏を請け負っておりました。まあ、もう25年ほど前の話なので時効でしょうから、この際、白状します。（笑）

さて、クラシック音楽って古典文学と同じく一般受けしないというのか、とっつきにくいとか、人を選ぶという印象が強いとよく言われるのですが、あなたはいかがでしょうか。

画)たちは、それはそれで素晴らしいわけですし、もちろん、ストーリー性も至高です。

という感じで書いて参りましたが、お気づきいただけたでしょうか。歌詞についての印象が全く書かれていないことに、です。

はい。音楽をこんな風に聴いているのです。歌詞を聴かずにバックグラウンドの音の作り方とか作曲の仕方ばかり意識が傾いていて、歌詞は二の次三の次。

個人的にはスガシカオさんと松任谷由実さんと美空ひばりさん、それにサザンオールスターズが好きなのですが、歌詞は一切覚えていません。覚える気がないのか覚えられないのかは自分でも分からないのです。

サザンオールスターズに至っては、松任谷由実さんのご主人である松任谷正隆さんと双璧的な存在である小林武史さんという日本屈指のアレンジャーが関わっています。

『シュラバラ★バンバ』『恋のジャック・ナイフ』『エロティカ・セブン』『愛の言霊』など、その曲のあとに進

音大生時代はクラシック音楽こそ至高の存在と思っていました。

正しくは思わされていたのです。洗脳とは恐ろしい。

大阪音楽大学に向かうなら、阪急宝塚線の庄内駅が最寄りの駅です。阪急梅田駅はいわゆる大阪市最大の繁華街です。阪急3番街のある巨大な広間を通り大阪市営高速鉄道（現大阪メトロ）の御堂筋線の梅田駅まではけっこうな距離を歩かねばなりません。大抵、どこから音楽が聞こえてきます。特に耳に残っているのは『愛はかげろう』と『すばらしい日々』。

『愛はかげろう』（『愛かげ』）は雅夢というグループが歌っていたフォーク・ソングで、『すばらしい日々』はユニコーンというロック・グループが歌っていたという記憶があります。

まず『愛はかげろう』についてです。

日本でかつて一世風靡した韓流ドラマに『冬のソナタ』がありましたが、そのオープニングの歌が『愛かげ』にそっくりだというので、「パクリ疑惑」が出ていたのです。個人的には「そんなん、どーでもエエやんか」だったのですが、仲間の塾長先生たちから、

むほどに音の層を分厚くしてゆく手法は「小林サウンド」の特徴です。



小林武史さん



松任谷正隆さん

このように、一般的な視点からは数本の線が外れているというのか、頭と耳のネジが数か所緩んでいるか足りないような感覚なのです。ですから、「あの歌詞、いいよね～」と言われても、悲しいことに、「ああ、そうなんだ。」としか言えないのです。

こんな感覚でいるので、曲に感動はしても歌詞に感動することがほとんどありません。だからといって、「じゃあてめえは歌詞が書けるのかい？」と言われてれば、あのような素敵な歌詞は到底書けません。

ナンとも矛盾満載な聴き方をしているようで、自分の感性のゆがみというのか偏りを、年齢を重ねるほどに気づかされます。

歪んだ聴き方ということで、勢いあまって書き加えますと、SMAPの歌のメロディラインの素晴らしさに気づかされたのは、久米由基さんというアレンジャーがピアノソロで演奏している『Relaxing Piano ~SMAPコレクション~』というCD音源を耳にしてからです。



『Relaxing Piano ~SMAPコレクション~』



久米由基さん

このCDとの縁は、数年前に出雲大社をはじめ、^{おおくにぬしのみこと}大国主命や^{すさのおのみこと}素戔嗚尊にまつわる歴史探訪で出雲に赴いた際のことです。宿泊ホテル（JR出雲市駅前スーパーホテル）に隣接されているスーパー銭湯（ランプの湯）で流されていたBGMがこのCDに収録されている『世界で一つだけの花』でした。

そのメロディがあまりにも美しく感じ、「音源の所在」を探し続けたところ、「SMAPコレクション」に収録されていることが分かりました。仕事が終わった直後に流すと、心が洗われるような気持ちになります。この意味では、縁結びの神様である大国主命にご縁を結んで頂けたことになりそうです。

お叱りを受けついでに書きますと、このピアノソロを聴いて初めて収録されているそれぞれの曲の良さが理解できたのです。そして思ったことを歯に衣を着せずに申しますと、

「SMAPの歌声が邪魔でこれらの曲の本来の良さが分からなかったのだとしたら、歌声も歌詞も不要じゃないのかしら？」

というものです。

う～ん、これで、SMAPファンだけでなくポップス・ファン全員を敵に回しましたね、おそらく…（大汗）

著作権の関係で「SMAPコレクショ

チェンバロはピアノの前身という位置づけと考えるのが一般的ですが、チェンバロとピアノは全くの別物で、むしろパイプオルガンに近いのではというのが個人的な想いです。



ドイツ・アンマー社製のアンマー・チェンバロ

あのパイプオルガンから見れば本当にちゃちな感じがする、ともすれば未熟な楽器に感じますが、これがなかなかの複雑な機構を持っているのです。

グランドピアノでは鍵盤を押すとハンマーが下から弦をはじきます。下からはじくので、鍵盤を強く押すと強い音が発せられ、緩やかに押すと弱い音が発せられるので、強弱の自由がかなり利きます。

バルトロメオ・クリストフォーリがチェンバロを改造して試作品を世に発表したとき（1709年）は

「gravicembalo col piano e forte」

「グラヴィチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテ（弱い音から強い音まで自由に演奏できるグラヴィチェンバロ）」という名前でした。



gravicembalo col piano e forte



現代のピアノ
ドイツ・ベーゼンドルファー社製

一方のチェンバロですが、鍵盤を押すとハンマーをつけた部分が一旦弦が張られている場所よりも高く上がり、すぐさま落ちるときに細い弦をはじくという構造になっているので、強弱をつけることができません。

」の全曲をお聴かせできないのが残念なのですが、Drop Boxに格納しておきますので、皆様それぞれでダウンロードの後、『世界で一つだけの花』や『夜ノムコウ』のメロディを編み出した横原敬之さんやスガシカオさんの感性の素晴らしさをご堪能下さい。

では、ここからが本編でございます。（カゲの声：前振り長っ！）



サザン・オールスターズ



Umi no Yeah!!

Helmut Whalcha

ここからはバリバリのクラシック音楽の世界のお話です。皆様にどこまでお伝えすることができるか、大変不安です。

そこで考え出された機構が、鍵盤を2段にして実際に押さえている鍵盤の音と同時に1オクターブ高い（低い）音を同時に発音させるというものです。こうすることでユニゾンになるので、骨太な層の厚い音が発せられるのです。



バルトロメオ・クリストフォーリ

ピアノの入門者が誤解することに「フォルテ＝大きな音」・「ピアノ＝小さな音」というものがあります。

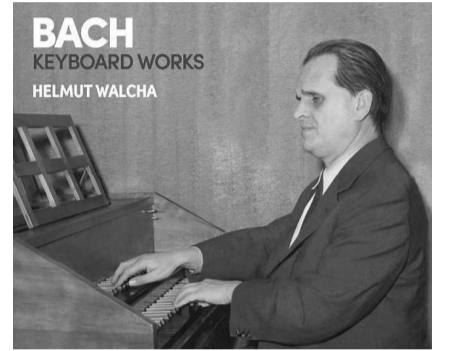
フォルテは「強い音」という意味で、ピアノであれば打鍵を強くすれば、それだけで強い音が出ます。この強い音を「大きな音」と初心者に誤解させることがあるのは、指導者の責任かもしれません。

逆に打弦を弱くすれば、必然的に音が弱くなり、それが小さい音に聞こえるのです。

こういう人間の脳の錯覚を上手に使っ

「バッハ弾き」の大家にヘルムート・ヴァルヒャ（バルハ）がいます。盲目のオルガニストであり、チェンバロ奏者でもあります。

残念ながら鬼籍に入られていますが、その演奏には、他の演奏者では感じることでできない一種異様な迫力があり、特にチェンバロの演奏に顕著に見られます。というのは、他のチェンバロ奏者と一線を画している理由は、チェンバロそのものにもあるからです。



ヘルムート・ヴァルヒャ

バルヒャが愛用したチェンバロはドイツのアンマー社製である、アンマー・チェンバロでした。このチェンバロは一般的な歴史的チェンバロとは異なり、モダン・チェンバロという（「バッハチェンバロ」ともいわれる）、狭いサロン用途のものではなく、大型で響きが豊かな、いわゆるホールや教会で演奏されるコンサート型です。

て、1本の弦をはじくのをオクターブ上（あるいは下）の弦も同時にはじくことで音の層を分厚くし、強弱がついているように感じさせたのです。

これが一般的なチェンバロの機構ですが、アンマー・チェンバロはもう少し機構が複雑なのと、音域が一般的なチェンバロよりも広く、それだけ層の厚い音を発することができます。

これらのことから、アンマー・チェンバロが奏でる音楽はピアノに程遠く、パイプオルガンに近い感じがするのは、ヴァルヒャ自身がオルガン奏者だったので、彼の考え方が反映されているものとも考えられます。

ヴァルヒャが演奏する13枚組のバッハ全集CDを聴いていて、長いあいだ腑に落ちなかったものがストンと落ちました。それは、アンマー・チェンバロの凄みのある音質ではなくて、深く聴き入るほどにヴァルヒャのバッハの音楽への解釈について、聴く側の理解が進んだことによります。

彼の解釈に基づくと、どこで凄みのある層の厚い響きで演奏し、あるいは本来のチェンバロの音質に戻して演奏するのかを緻密に追いかけていくと、そこ

歴史は繰り返す？ ⑤

先日、小学生の生徒さんから、「先生、『絶叫学級』ってしってる？」と尋ねられたので、

「え？ 絶叫マシーンじゃなくて？ ドドンパじゃないの？」

エエ年したジュークチョーが生徒さんにボケをかましてどないすんねん、なのですが、「絶叫=マシーン=ドドンパ」とつながっているのもどうなんでしょうね？（笑）

詳しく聞くと、ホラー小説（ライトノベル）なんだそうです。早速Google先生に尋ねてみると、小説だけでなくコミックも発刊されていますね。

ちなみにワタシがこの生徒さん年齢の頃に大流行したのは、楳図かずおさんの恐怖漫画シリーズ。

『漂流教室』
『ミイラ先生』



アニメ『妖怪人間ベム』

アニメでは『妖怪人間ベム』。

中学生になってハマったのが、つのだじろうさんの著作『恐怖新聞』。



小学生さんに尋ねると、どの学校にも

にバッハが想定していた「バッハの音楽」が自ずと見えてくるのではないかと気づかされたのです。

バッハの音楽は本当に自由です。思わぬ所に思わぬ転調があり、バッハいわく、

「私にとっては12回半音ずつずらして転調させ、もとの調に戻らせることなど、造作もないことだ」。

確かに、彼の言葉は、『半音階的幻想曲とフーガ』の不気味な半音移調の連続や、『イタリア協奏曲』の第3楽章のような、見事なまでの自由闊達で急速な転調の技を聴くと、直接的に伝わってきます。



若き日のヨハン・ゼバスティアン・バッハ

それと同時に、独奏曲なのに『イタリア協奏曲』のように「協奏曲」という名をつけた作曲家バッハの想い、あるいは、音楽を学ぶ人のための優れたテキストがまだなかった時代に、バッハがいかにして苦心し、愛する弟子のために、鍵盤楽器の基礎技法のみならず、作曲法までを伝えようとしていたのか、そういう細かなところまで聴く者を納得させてくれる演奏者となると、なかなか巡り会えないものです。

世界的な「バッハ弾き」といえば、パイプオルガンとチェンバロではグスタフ・レオンハルト、あるいはカール・リヒターを筆頭に、もちろんヴァルヒャも含め数多の演奏家がありますし、ピアノでいえば、グレン・グールドやタチアナ・ニコライエワ女史が挙げられます。

でも、こちらがずっと抱いていた疑問や、音大生の時代を経てピアノ弾きをしていた時代に巡り会えなかった、あるいは、巡り会えていたのだけれど、自分の未熟さゆえに気づけなかったことなど、ありとあらゆる疑問や悔しさに対して的確な答えを出してくれたのは、ヴァルヒャだけのような気がします。

バッハの入門者が通らねばならない『イ

ンヴェンションとシンフォニーア』を経て鍵盤音楽の旧約聖書といわれる『平均律曲集』、そして『イタリア協奏曲』や『半音階的幻想曲とフーガ』などの燦然と輝く演奏会仕様の名曲とを、バッハがどのようにして1本の線でつなげようとしていたかのを、ヴェルヒャの演奏を軸に、私なりにたどってみようと思います。その結果は、いつになるのやら分かりませぬが、続きは次回以降で…。

下のQRコードをスマホ（iPhone）で読み取るとDrop Boxの音楽ファイルが現れますので、ワンタッチでお楽しみいただけます。



Drop Box

ご注意：

- ①連続再生ができません。
- ②ファイル番号001から005まではチェンバロ演奏ですが、出力が高いため、ヘッドフォンでお楽しみ下さる場合は、ボリューム（音量）にご注意下さい。
- ③これらの音楽ファイルはお聞きいただけますが、お手持ちの機器への取り込み（コピー）はできません。
- ④なお、この音楽ファイルは2月末日まで保管し、それ以降は削除致します。
- ⑤このDrop BoxのURLは、著作権法上のことがありますので、ご友人やお知り合いに広めることはお控え下さい。ご協力をよろしくお願い致します。

きなのですけれど…。

それで、小学生さんに「学校の怪談」を伺いますと、「理科室の人体模型が動いた（夜な夜な歩いている）」とか「トイレの花子さん」的な内容だったり、ワタシが小学生の頃とあまり変わっていないのです。

ワタシはめっちゃ怖がりだったので、理科準備室に独りでは絶対には入れませんでした。それは、人体模型ではなくて全身の骸骨の模型が怖かったからです。

今でもドクロのデザインを施したTシャツなんかがありますが、それを見るたびに背筋が冷たくなるのです。それと同時に、こんな退廃的なデザインが受け入れられる理由が理解できないし、日本が戦争で明け暮れる国だったら絶対にこんなデザインは受け入れられないだろうなと思ってしまいます。

まあ、この年齢になりますと性根が図太くなっているというのか、鈍感になっているというのか、いわゆる、厚かましくなっているのか、ホラー的な絵を見てもあまり怖いとも思わないし、むしろ「この漫画家さん、凄い画力やね〜」なんていう感覚で見えてしまいましたが、ナンカピンと来ないのです。



MIRRA SENSEI
新装版が発刊されているようですが、絵のアンゲルはこっちの方が断然カッコイイですね。絵の昭和感がハンパないですが（笑）

「学校の七不思議」があるようですね。

ワタシがかつて勤務していた私立の中高にもありましたね。

インターハイに向けて夜遅くまで練習をしているバレー部員の話ですけれど、生徒たちが練習を終えて無人のはずの体育館からバレーボールが床を跳ねる音が聞こえたとか、それこそ練習中に亡くなったらしい当時のバレー部員の生徒さんの幽霊を見たとか、おまけにそういう超常現象が現れない年はインターハイで優勝できないとか…。

あるいは、午後5時を過ぎると段数が1段増える階段があるとか…。



楳図かずおさん

世界遺産の敷地内にある歴史の古い学校なので、むしろ出ない方が不思議なんじゃないかと考えながら、生徒さんがまことしやかに話すのを楽しんでいました。だって、少なくともこの学校内で、ワタシ自身はそういうシーンに遭遇したことがないからです。

まあ60年以上ニンゲンをやっておりますので、不思議なことや霊体験と思われるようなことには何回か遭遇しています。でも、靈感ゼロなので、ホンマなんかウソなんかよく分かりませんし、それこそ「幽霊の正体見たり枯れ尾花」やないですが、「疑心暗鬼（疑う心の闇に鬼が出た）」というやつです。

でも、「魍魎魍魎」「百鬼夜行」という怪しげでおどろおどろしい言葉は好

それよりも、目の前の絵やストーリーに対してではなく、ピュアな爺さんを目指すこの身が、ピュアでなくなっていく方向へ突き進んでいるらしいことに気づく方が恐ろしくなります。

でも、若い頃は、ホンマに怖かったですものね。ホラー映画ではありませんが、H.G. ウェールズの名作『宇宙戦争』なんて、怖がりながらもあぐらをかいて座る親父様にもたれかかりながら、両手で顔を押しえてでも指の隙間から見て怖がっていた記憶が残っています。当時はまだモノクロ放送だったんですけど、むしろカラー放送よりも怖かったかも知れません。



H. G. ウェールズ

日本の三大怪談といえば、『四谷怪談』『牡丹灯籠』『番町皿屋敷』だそうですが、ワタシが生まれる前に作成された東映（東宝でしたか？）の怪談映画なんて、リアルな撮影現場ではもちろんカラーなわけです。それがモノクロになったときに恐ろしい映像になるように当時の技術者が苦心惨憺したのです。

ヒッチコックの名作に『サイコ』がありますけれど、殺人シーンの寸前までは恐ろしく遅いカメラワークを続け、いざ殺人シーンとなると瞬足的なワークにすることや、実際に殺すシーンは見せないで声だけで想像させるという、見る者の想像力をかき立てる仕掛けは今見ても見事だと思わされます。



『サイコ』のセットで。映画製作中に談笑するアンソニー・パーキンス、アルフレッド・ヒッチコック、ジャネット・リーの3人。

ところで、恐怖映画を作らせたなら、日本は世界一なのをご存じですか？

かつて『着信あり』とか『呪音』とか『リング』とかがどれほど恐ろしいかをハリウッドの恐怖映画を作る監督たちが確かめに来たのです。

ちなみに隣の韓国では、上映される度に少なくとも2人は卒倒者が出て救急車で病院に搬送されるというのが続いたため、大統領自らが上映禁止措置を執ったらしいです。

それではということで、アメリカで上映したところ、『13日の金曜日』シリーズの大ファンたちをも震え上がらせて大好評を得たので、日本に負けじとアメリカの俳優や女優の協力を仰いで『ザ・リング』なるものを作ったところ、ファンからは全然怖くないぞとブーイングを受け、見事にコケました。

『漂流教室』にせよ『恐怖新聞』にせよ、もちろん日本三大怪談も含めて、常に湿っぽくてピッタリと身体に張りつかれるような恐怖感は、日本独特のようですね。見た目だけの怖さではなくて心底ゾッとさせられる怖さは、仏教や神道という宗教観に影響されている気がしてなりません。

ちなみに小泉八雲（ラファディオ・ハ

ーン）が書いた『怪談』ですが、英訳版『KAIDAN』が発刊されています。

ところで、小学生のときには盛り上げた「学校の怪談」ですけれど、中学生からは「学校の怪談」はほとんど聞かなくなります。年齢が上がると妙に現なり実的になってしまうのかしら？ これ、ワタシの中にある「不思議」のひとつなのです。



ラファディオ・ハーン（小泉八雲）

なんにせよ、ただ怖いだけでなく、その物語の中に、化けてでもこの世に出て来なければならぬ筆舌に尽くせぬ想いや人間の業や性を、言葉ではなくて、怪談に登場する人物の姿に託すことで、相手を陥れた側がその後ろめたさを生涯背負うというのがどうい

ことかを、映画を見たり本を読んだりする者に、「呪い」とか「祟り」とか「憑依」という言葉を思わず連想させながら心の奥深くに染みこませていく深い恐怖が、日本人独特の恐怖感なのではないでしょうか。いわゆる恨み骨髄というやつですね。

その反映として、生きとしい生けるものへの慈愛を抱き実践することや、自然物に宿る魂への畏怖・畏敬の念を育むことにつながっているのですね。

この恐怖の感覚は世代が変わっても生きていくようで、安心しました。このDNAは受け継がれて行って欲しい日本の文化のひとつのように思えてなりません。

Youtubeでも、恐怖系とかオカルト系というのか心霊系のものが多い出ておりますが、9割くらいは、動画をアップしている人物らしい人を中心に廃墟巡りと幽霊トンネルと噂されるところへ出向いては、数人が画面の中でギャーギャーと空騒ぎをしているだけのニセモノにしかみえず、もう滑稽を通り越して何だか悲しくなってくるのは、ワタシだけでしょうか。

いや、だ・か・ら、そこじゃないって！あなたの背後の右側、そこにいるよ。気づかないの？ なんてね…。

『塾ごっこ』のネタにも起用した『河原院』です。いわゆる古文のオカルト系説話です。いにしえの人は、現代人よりも強くこのようなことを信じていたというのが伝わってくる物語は、けっこうな数で存在します。『河原院』は、融の左大臣の死後、この身内から譲り受けた宇田の院が融の左大臣の幽霊に遭遇し、この幽霊から、肩身が狭いのでこの家から退去してくれと頼まれます。さて宇田の院はどのように対応するのでしょうか。

河原院

古本説話集

今は昔、河原院は融の左大臣の造りたりける家なり。陸奥の塩竈のかたをつくりて、潮の水を汲みてたたへたり。さまざまをかしきことを尽くして住みたまひける。大臣失せて後、宇多の院には奉りたるなり。醍醐御門は御子におはしましたければ、たびたび行幸ありけり。

まだ院の住ませたまひける折に、夜中ばかりに、西の対の塗籠を開けて、そよめきて人の参るやうに思されければ、見させたまへば、昼の装束うるはしくしたる人の、太刀はき笏取りて、二間ばかり退きて、かしこまりてゐたり。「あれは誰ぞ」と、問はせたまへば、「この主にさぶらふ翁なり」と申す。「融の大臣か」と、問はせたまへば、「しかにさぶらふ」と申す。「そはなんぞ」と仰せらるれば、「家なれば住みさぶらふに、おはしますがかたじけなく、ところせくさぶらふなり。いかがつかまつるべからむ」と申せば、「それはいと異様のことなり。故大臣の子孫の、われに取らせられたるにこそあれ。われ押し取りてゐたらばこそあらめ、礼も知らず、いかにかくは恨むぞ」と、高やかに仰せられければ、かい消つやうに失せぬ。

*融の左大臣…源融。嵯峨天皇の皇子。 *塩竈のかた…塩竈という土地の景色。 *西の対…寝殿造りの寝殿の西にある別棟の建物。 *塗籠…周りを厚い壁で塗り込めた小部屋。寝室や物置に用いた。 *二間…建物の中で柱と柱との間、二つ分。

〈編集後記〉

2024年の幕開け早々から大地震に大きな事故と続きました。石川県に友人の塾長先生がいらっしゃるのですが、PCのモニターが倒れて破損するなど、なにがしかの被害を受けられたそうです。能登半島は本当に美しく情緒あるところです。被災された方には本当にお気の毒でなりません。

それにしても、年が明けたと思っていれば、あらか、カレンダーを早速1枚めくっているなんて、年を重ねる度に、月日の経るのを速く感じます。おそらく、新年明けて待たなして中学入試があったからでしょう。13日から始まり、嵐のように過ぎ去っていきまので、やれやれと思ったら、もう最終週でした。

学校ではインフルエンザとコロナが流行していると伺っております。くれぐれもご留意下さり、厳寒の時期ご自愛下さいませ。



Amazonサイト